

令和7年度 岐阜市立芥見小学校 経営構想

【児童・地域の実態】

- ・4つの自慢「あいさつ」「思いやり」「そうじ」「外遊び」を意識した学校生活を送ろうとする児童が多い。
- ・学習に対して真剣に取り組むことはできるが、受け身であり、自分で考えることや思いを伝えることに弱さがある。
- ・学校全体は落ち着いているが、主体的、創造的な活動に弱さがある。
- ・支援が必要な児童へは、外部機関との連携を図り、その子なりの成長を職員全員で見届けている。
- ・協力的な地域であると同時に、児童や学校への期待も大きい。

【学校の教育課題】

自分で考え、行動し
自信をもってやりぬく子の育成

- 他者への思いやり、共に生きる人間関係
 - ・他者を大切にする豊かな心、と同時に自分自身を大切にする児童の育成
- 自己肯定感、自信と誇りの醸成
 - ・卒業後の糧となる「できる」という充実感、自分自身、学校・地域の誇りにつながる活動の積み上げ
- 確かな学力の定着→自ら学ぶ姿勢
 - ・将来に生きて働く基礎的・基本的な内容の確実な習得と思考、判断、表現を通してそれらを活用する力

【市の方針と重点】

- ・学校・家庭・地域の誰かが生命の尊厳を理解し、互いに心を開く対話を重ね、一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合う教育を推進する。
～第4期教育振興基本計画～
- 1 一人ひとりのよさか輝き、互いに認め合う心を育む教育
- 2 主体的かつ協動的な学びを通じて未来の礎となる力を育てる教育
- 3 その子らしさを生かし、可能性を伸ばす教育
- 4 このまちと人から「生きる」を学び、社会参画する力を培う教育
- 5 子どもに深く向き合う、あたたかさで働き甲斐にあふれる学校づくり
- 6 新しい時代の学びにつながる、教育システムの整備
- 7 子どもも大人も共に学び支え合う、家庭・地域の教育力の向上

豊かな心で たくましく 生きぬく子

4つの自慢
あいさつ・思いやり・そうじ・外遊び

かしこく

受け身から主体へ！
考える力

やさしく

児童が主体となる活動
「思いやりの木」を育てる

たくましく

やりきる力
弱さへの歩み寄り

□授業のOS 改革

- ・効果的なICT 機器の活用
- ・リアルとデジタルのベストミックス
(第2次岐阜市GIGAスクール推進計画より)

□「考える場」のある授業づくり

- ・教授型授業からの脱出
- ・「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体的な充実

□学力状況調査の分析、実践

- ・分析結果をもとに、授業改善に取り組む

□学びの自覚化

- ・「できるようになったこと」、「分かったこと」が何かを子どもが自覚できる授業づくり

□人権教育の推進

- ・第5ブロック人権教育推進校として、学校の全教育活動を通して取り組む
- ・身に付けたい三つの力を位置づけた授業づくり(認識力・自己啓発力・行動力)

□道徳教育の推進

- ・学校の全教育活動を通して取り組む
- ・年間35時間の授業の位置づけ
- ・考え議論する道徳を
(問題意識をもって授業に臨む、自己を見つめる、多面的・多角的に考える、自己の生き方についての考えを深める 指導の意図を明確に)

□特別支援教育への理解を深める

- ・個に応じた指導・支援、丁寧な指導
- ・関係機関との連携、保護者への丁寧な説明

□異学年交流を通して

- ・なかよし遊び

□特別活動の充実

- ・学級の一員として係活動や当番活動
- ・学校の生活を豊かにする、委員会活動の充実
- ・役割への責任感を育てる

□命の大切を学ぶ

- ・命を守る訓練の充実
- ・様々な場面を想定した訓練
- ・植物の育成や生き物の世話を積極的に行う

□健康な体づくり

- ・体育的活動の充実
(体力テスト、芥見オリンピック、水泳指導、なわとび、外遊びなど)
- ・食育
給食や家庭科の学習から
- ・健康指導
自分の体のことを知る

学校のエデュケーションリソース

子どもたちと教職員の笑顔があふれる 学校に

【地域の小・中、幼保、各機関との連携】

幼保・小・中学校や各機関との密接な連携

【家庭との連携】

子育てに頑張る保護者との連携

【地域との連携】

地域人材、諸機関との協働と有効な活用

【情報の発信】HPの活用 学校だよりとして毎日更新！

【コミュニティ・スクール】 芥見小学校運営協議会・学校支援推進委員会

地域・社会貢献ができる人材、社会形成能力の育成を視点に、地域と学校の協働の在り方を模索しつつ、学校機能を有効に果たす

【学校評価の活用】

保護者評価、CS評価、自校評価を次年度に生かす。HPにて公開。